

あなたに薦める『この一冊』2月

『三千円の使い方』

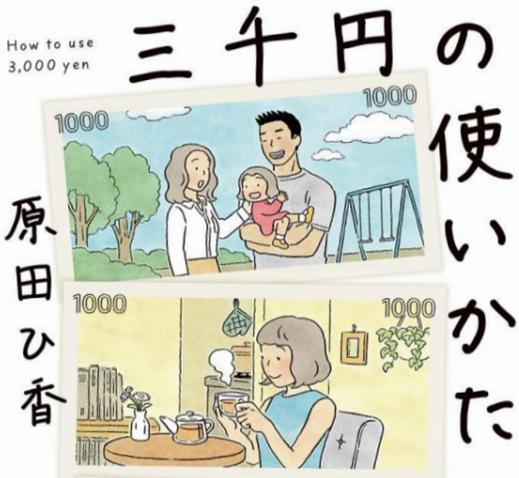
原田ひ香[著] 中央公論新社



社会科教諭 杉山 拓斗

高校 2年12組・15組

副担任



この本は死ぬまで本棚の片隅に置いておき、自分を見失うたびに再び手に取る。そういった価値のある本です。

絶賛!

知識が深まり、絶対「元」もとれちゃう「節約」家族小説!

中公文庫 定価770円(10%税込)

今回はお金に関する本を紹介します。とは言っても、ガチガチな金融に関する本ではありません。小説でありながら、読感はややかで、つい読んでしまう一冊です。

この本では、様々な三千円の使い方が出てきます。御厨家の祖母・母・姉妹の4人が中心に描かれているので、どんな世代の人にも当てはまる内容になっています。

「三千円」というのはみなさんにとって、どのようなものでしょうか。先生からすると高額のようにも思えるし、少額のようにも思えます。例えば、毎日の昼食代に三千円を払うことは到底できません。しかし、友人と行く居酒屋での飲食代の三千円は安い感覚です。友人と楽しい時間を過ごせたと考えると、気持ちよく三千円を支払うことができます。

世の中、お金で悩んでいる人が多いにもかかわらず、学校ではお金の使い方なんていう授業はありません。そんな人たちに寄り添った本になっています。また、使い方だけでなく、「三千円を生み出す方法」も出てきます。つまりは貯金や節約をして三千円を生み出し、有意義なことに使うことが学べます。

どのようにして、三千円を使い、生み出していくのかは自分の目で確かめてください。

原田ひ香豆知識

1970（昭和45）年、神奈川県生まれ。2005（平成17）年「リトルプリンセス2号」でNHK創作ラジオドラマ大賞受賞。2007年「はじまらないティータイム」ですばる文学賞受賞。著書に『ランチ酒』『三千円の使いかた』『そのマンション、終の住処でいいですか?』『財布は踊る』『図書館のお夜食』『喫茶おじさん』『定食屋「雑」』『古本食堂 新装開店』『あさ酒』などがある。

出典:原田ひ香 | 著者プロフィール, 新潮社.

★杉山 拓斗(スギヤマ タクト)先生の紹介★

- *担当科目・クラス
日本史探究(高2年9組、12~15組)
- *星座 → てんびん座
- *趣味 → 麻雀(賭けなし)
- *自分の中学・高校生活
毎日、部活に明け暮れていました
- *本校生の印象
みんな元気があると思います
- *感動した本
『永遠の0』百田尚樹[著] 太田出版
- *読むことが望ましい本
『嫌われる勇気』岸見一郎[著] ダイヤモンド社



図書館所蔵 同著者の 作品

他多数
所蔵

『図書館のお夜食』 ポプラ社



東北地方の書店に勤めるものの、うまくいかず、仕事を辞めようかと思っていた通口乙葉は、SNSで知った、東京の郊外にある「夜の図書館」で働くことになる。そこは普通の図書館と異なり、亡くなった作家の蔵書が集められた、「本の博物館」のような図書館だった。

『復讐屋成海慶介の事件簿』 双葉社

昼寝とデートに明け暮れながらも、なぜか依頼人を次々と満足させる凄腕の復讐屋、成海慶介。婚約破棄されたお嬢様や暴走老人など、恨みを晴らしたい人々が今日もそのドアを叩く。押しかけ秘書の美菜代を従え、きょうも気怠く優雅な復讐劇が幕を開ける――。痛快リベンジコメディ!



『母親からの小包はなぜこんなにダサイのか』
中央公論新社



野菜、お米、緩衝材代わりに肌着や靴下、ご当地のお菓子など。昭和、平成、令和――時代は変わっても、実家から送られてくる小包の中身は変わらない!? 家族から届く様々な“想い”を、是非、開封してください。

『一橋桐子(76)の犯罪日記』 徳間書店



万引、偽札、闇金、詐欺、誘拐、殺人……どれが一番長く刑務所に入れるの? 身寄りのないその高齢者の切なる願いは、人に迷惑をかけずに生きることだった。



編集後記：今月の「この一冊」の紹介図書「三千円の使いかた」は、2022年文庫ベストセラー第1位の作品です。円の価値が取り沙汰されるこの時代にこそ読んでほしい1冊といえるでしょう。